

■ 予算

歌集出版の費用は、体裁とページ数、部数で決まります。

近年はソフトカバー（並製）の軽快な雰囲気
を好まれる方が増えていますが、ハードカバー（上製）に比べ、費用は安くなります。

○ 四六判300部の費用の例

	上製	並製
200ページ	1,240,000	1,080,000
250ページ	1,360,000	1,120,000
300ページ	1,480,000	1,160,000

（円、税別）

※ 歌稿が整っている場合の費用です。

選歌や添削をご希望の場合、
編集費（30万～）が別途必要です。

※ 歌数が500首を超える場合、
歌書（評論集・エッセイ集等）の場合は
校正費（5万～）が別途かかります。

※ 部数は100部でも200部でも承りますが、
費用が大幅に下がることはありません。

歌集・歌書に関するご相談は

下記までお気軽にどうぞ。

小社編集長がご対応いたします。

現代短歌社／一般社団法人三本木書院
〒604-8212

京都市中京区六角町357-4

TEL.075-256-8872 FAX.075-256-8873

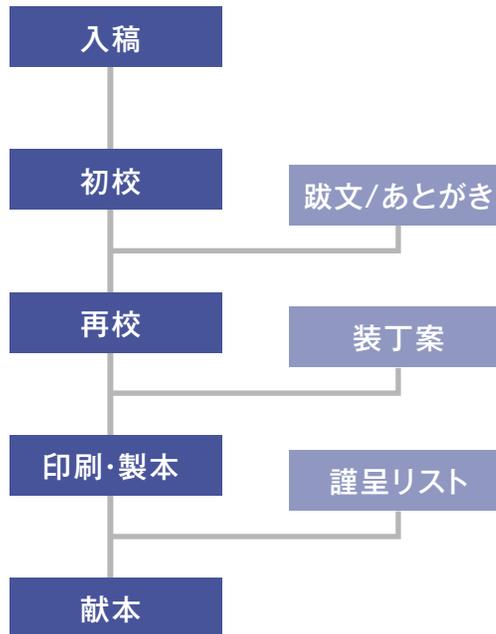
メール info@gendaitankasha.com

歌集出版 の ご案内

■ 歌稿

歌集づくりは、歌を選び、何首かずつまとめて並べ替え、小題を付し、章立てするところから始まります。パソコン入力でも手書きでも可です。

お預かりした歌稿が一冊の歌集として上梓されるまでには、およそ3ヵ月かかります。誕生日や記念日等、いつまでに出すという発行日を定めたら、その日からさかのぼって3ヵ月前までに歌稿を整えて下さい。



小社で歌稿をお預かりし、選歌からお手伝いするケースも増えています。その場合の歌稿は結社誌のコピー等で差支えありませんが、制作期間は5~6ヶ月必要です。



■ 入稿する

歌集で標準的な本のサイズは四六判(130mm×188mm)かA5判(A4の半分)です。

歌の組み方には、1行書きか2行書き(20字詰めで折り返す)か、1ページ2首組か3首組か、小題ごとに改ページするかしないか等のポイントがあります。

お手元の歌集を開いて、出来上がる歌集の姿をイメージしてみてください。



■ 校正

ゲラ(校正刷り)に朱を入れ、歌集の内容を仕上げていく段階です。初校、再校と2度にわたりゲラをご確認いただきます。

小社でも、仮名遣いの誤りや固有名詞の表記等を正し、俗字を改める校正・校閲を行います。

■ 装丁

表紙はクロス(布)か紙か、カバーはどんなイメージにするか、お好きな色等、歌集の体裁についてのご希望を伺い、装丁家に依頼して案をお示しします。



■ 部数

部数を決めたらいよいよ印刷に入ります。献本される冊数に加え、お手元に50~100冊は残されることをおすすめしています。

歌の仲間、友人・知人等、謹呈する方のリストアップはひと仕事ですが、毎年お出しになる年賀状の枚数が一つの目安になります。

小社からも謹呈先のリスト(図書館、メディア、日本歌人クラブ等)をご提案します。



■ 献本する

謹呈リストにもとづく献本はご自身でなさる方もおられますが、小社でも発送作業を承ります。